

## インターバンクの声（2017年8月31日）

昨日の円相場は、東京市場とロンドン市場でそれぞれ40～50銭ほどドル買いが進んだ後に数時間ほど調整売りとなる局面もあったが、結局ニューヨーク市場では110円30銭前後に落ち着いた。

東京市場終盤のドル買いは、相場が静かになっていたタイミングで欧州勢がまとまったドル買いを入れたようだったが、この時は110円10銭台で上昇の勢いがなくなり、米金利の低下とともに元の水準に戻ってしまった。その後、ニューヨーク勢の参入に合わせるように米金利が上昇に転じたことからドル買いが再始動、8月の米ADP雇用統計と第2四半期GDPがともに市場予想を上回ったこともあって110円40銭台まで上昇した。

ただ北朝鮮が挑発行動を繰り返すことへの懸念はくすぶったままで、トランプ米大統領が北朝鮮への対応について「対話は答えではない」とツイッターに投稿したことからドル売りの反応も見られた。

今日も日中に中国の製造業PMI、ニューヨーク時間には米個人所得・消費支出などの発表もあるが、大きな変化がなければ足元の水準前後で明日の雇用統計待ちとなりそうだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。